

委員会名	2022 年度 第 6 回 生産技術委員会
開催日時	2023/1/12 (木) 15:00 ~ 17:30
開催場所	伊藤忠石油開発株式会社(ハイブリッド開催)
出席者 (敬称略)	<p>現地参加 桐山 (運営幹事)、高居 (運営幹事)、久々宇 (運営幹事)、知識、谷口、荒木、飯野、佐藤</p> <p>オンライン参加 吉岡委員長、巳波、上谷、松本、古井、中島、中田、加藤、安達、村井、増田 以上 26 名中、19 名参加</p>
議事	<p>1. 事務報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 委員名簿の一部変更箇所について連絡。 ● INPEX 山本委員が退任し、交代で INPEX 飯野委員が着任した。 <p>2. 幹事会報告</p> <p>知識委員より幹事会議事概要 (第 87 期 9 回) が報告された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 会費未納者には引き続き、適宜支払いの促しを行う。 ● 第 88 回春季講演会の準備委員会を 12/5 に開催。各委員会より人を出して準備を進めている。 <ul style="list-style-type: none"> ○ ハイブリッド開催ではオンライン配信を優先し、編集の手間を勘案しオンデマンド配信は劣後としたい。パネルについても今後、詳細を詰める。 ○ 秋田県からの助成金など、各助成金は確保できる見込み。 ● 将来像検討会議 <ul style="list-style-type: none"> ○ 協会名の変更より先に、協会の Mission、Vision についての議論を行っている。 ○ 今後、各委員会からも意見を聴取し、議論に反映させる。 <p>3. 理事会報告</p> <p>吉岡委員長より理事会議事概要 (第 87 期 4 回) が報告された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 将来像検討会議についての議論を進めている。会長から Mission 案、Vision 案を提示し、理事からの意見を求めた。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 目的に設備等についての記載がないことに関する確認があり、施設技術を外す意図はなく分野は広げていく意向である旨回答。 ○ 石油天然ガスは使い続けることになるため CCS は必須であると思うが、CCS に対するスタンスの確認があり、CCS は昨今石油業界外からの参入もあり、そのような人達を受入れる体制と対外的な発信ができればとの意向であるとの旨回答。 ○ 環境やエネルギーという名称が大学等で増えたが実施内容が分かりにくくなっている、間口を広げるのもよいが分科会を作る方法もある。、といった議論がなされた。 <p>4. 2023 年度春季講演会 シンポジウムについて</p> <p>加藤副委員長より 2023 年度の春季講演会のシンポジウム開催に向けて報告がされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 前回の委員会からのアップデートとして、シンポジウム登壇者は概ね決定した。 ● 講演内容や順序は今後変更の可能性あり。 ● 2/10 締切のシンポジウムタイトルについてのアンケート結果を報告 <ul style="list-style-type: none"> ○ パネルの進め方にも関わるので、アンケート結果を踏まえて、委員の意見を伺って決定する。 (質疑・コメント) ○ なんらかの進歩があるようなタイトルにしたい。これまでは今後の道筋だったので、何かしらの進歩や到達点を示したい。

- 現在を議論するのであれば変革期、到達点を議論するには CN がよいのではないか。
- “効率化”についてのシンポジウムとのリンクはコスト削減についてを考えている。
- 風力の話もあるので、資源開発よりはエネルギー開発がよいのではないか。
- タイトル案を組み合わせるのも一案。
- 議論の結果、「エネルギー開発の多様化・効率化～CN 社会へ向けた第一歩」にて決定。
- 講演者への謝金の捻出は難しい。事務局には継続的にインプットする。
- 講演原稿は負担であると思うので、講演の文字起しの掲載や代筆可も含めて検討する。

5. 次回以降の委員会開催日・場所について

久々宇委員より次回以降の開催場所につき、説明された。

- 運営幹事より2月を目途に懇親会も含め、出欠連絡を図る予定である。

	2022(案)		2021(実績)
第1回	5月 12日 (木)	JOGMEC→オンライン	JOGMEC→オンライン
第2回	7月 7日 (木)	INPEX (ハイブリッド)	INPEX→オンライン
第3回	9月 1日 (木)	JX→オンライン	JX→オンライン
第4回	11月 2日 (水)	秋田大 (ハイブリッド)	秋田大→オンライン
第5回	12月 2日 (金)	東北大 (ハイブリッド)	東北大→中止
第6回	1月 12日 (木)	CIECO(ハイブリッド)	CIECO→オンライン
第7回	3月 3日 (金)	JAPEX(技術研究所)	JAPEX→オンライン

6. 将来像検討会議に関する懇談

小寺会長より将来像検討会議の内容について報告された。

(質疑応答・コメント)

- 石油の名称を残すことは賛成。委員会を設ける場合は、目的が曖昧になるのではないかと思う。
- 石油技術の名称を残しておくべきではないか？アイデンティティを重視し、名称の変更による技術者の交流が失われるのを懸念する。
- 名称を英語名にすることは可能なか？JAPTにしてもいいのではないか？
⇒検討会議の中では英語名称にする意見はない。
Petroleumであれば分野が広がるのでいいのではないかと思う。
- 将来を担う技術者の育成はどこが担うべきなのか？
⇒業界に入ってから、学生になってから、の二種類があると考えており、学生対象が主。資金援助を受けて、資源塾のような講座を実施し、技術・業界の紹介をする場とする。(講師(企業のエンジニアや大学の先生)への謝金を協会から支払う)
- CCSだとゼネコンなどの分野が入ってきていると思われるが、他業界に意見を伺うことが可能なか
⇒RITEの二酸化炭素地下貯留技術組合にヒアリングを実施しており、回答待ち。
- 1933年からの歴史ある組織がある印象(ブランドがある)を持っており、名称変更は慎重になるべき。カーボンニュートラル対応は分科会(or 委員会)で対応していく。
- 学会は会員のためにあるべきであり、現体制で運営ができるのか、という不安がある。運営体制の強化も課題になってくるだろう。
- エネルギー保障など業界のおかれる環境を踏まえると、技術を国内で持つことに意義がある。石油は不可欠であり、名称変更はしないほうがいいのでは。他方、他団体から敷居が高く思われるCO2などの名称を挿入し、カーボンニュートラルなどの印象をつけることが必要。
- 委員会の設置については賛成。今後のカーボンニュートラルを見据えることも重要。

- 時代に合わせて、あり方を考える必要がある。最近の学生はカーボンニュートラルなどを志望の動機にしている人が多い。Mission にふさわしい名称が必要であり、名称が長くなっても、アイデンティティを残しつつ、時代の潮流を取り込むことが重要であると思われる。ガスシフトも鑑みると、天然ガスもクリーンなので、石油天然ガス CCUS 技術協会なども一案か。
 - 今後のエネルギーミックスを考えると、石油は不可欠だと思ったが、外部の目線で考えると、石油技術協会に入ることのメリット・得られることを説明していくことが必要だと思う。その中で、技術委員会の設置も方策の一つとして賛成する。石油開発技術が根幹にあるため、石油の技術が地下流体技術に活用できるという認知度をどのように上げていくかが重要である。
 - 名称に石油を残すべき。まだカーボンニュートラルの社会実装に至っていない、各社で関連部署が出来始めているところ。名前には石油に CN 関連ワードを付け足すのが良いかと思う。
 - CN は石油技術の延長であることをコマーシャルするためにも法人化による団体の格を上げることが重要である。
 - 石油開発技術が将来どのように役立つか、カーボンニュートラルに役立つかを一般向けに情報提供していくことが重要と考える。名称変更は法人化のタイミングで行うのが良いのではなかろうか？スタンフォード大学は school of sustainability の下に department of energy science and engineering があり、石油が見えなくなっているが、Texas 大学や TexasA&M 大学は石油を残している。東大・京大は石油の名称を用いていないし、DX などを用いて効率化を進めている。学生の意見を吸い上げ、Data Driven な教育を導入していくアイデアがあり、CN 委員会は新技術のニーズを見出した上で会員が取り込めるように考えるべき。
 - HP のトップ画面の画像をロッドポンプから別のものに変えるだけでも印象は変わると思う。
 - 資源塾は新井財団からの奨学金を応募し、資金提供を受けて運営をしているようだ。法人格を得ることは重要である。
7. 話題提供
- 伊藤忠石油開発 高梨様より「大規模生産案件における 4D 適用事例のご紹介」について話題提供いただいた。

以上